

【レポート】

自治労大分県本部に集う単組の書記長で構成する「自治体共闘書記長会議」。活動内容は各種闘争における戦略や諸課題の解決などについて議論をすることを目的とするとともに、書記長間の交流、ひいては単組間の交流の深化も目的の一つである。天瀬のボランティアにも多くの仲間が駆けつけていただいた。住民が主体となり行政がサポートしながら復興の途上にある、天瀬町を訪れた。

書記長会議フィールドワークレポート — 2020年7月豪雨災害からの復旧～日田市・天瀬町～ —

大分県本部／自治体共闘書記長会議

1. 2020年7月豪雨災害（注1）

① 大雨の状況

7月5日夕刻から降り始めた雨は止む気配もなく、翌6日午前2時30分に大雨警報が発表される。11時49分には土砂災害情報が出され、時間とともに雨の勢いも増したことで7日午前6時15分には中津江・天瀬地区に記録的短時間大雨警戒情報が発表された。

② 雨量の状況

ア 最大時間降水量 80.5mm（7月7日2：54）

イ 24時間降水量 437.7mm（7月7日13：00）

※地点観測史上1位

ウ 48時間降水量 792.5mm（7月7日23：00）

※地点観測史上1位

エ 72時間降水量 862.0mm（7月8日9：00）

（いずれも観測地点は日田市・椿ヶ鼻）

③ 河川水位と避難状況

7月6日未明に発表された大雨警報を受け日田市は同日13時10分に避難準備・高齢者等避難開始を発令し、18時には避難勧告、19時50分に避難指示を相次いで発令した。避難勧告が発令された時点で、の玖珠川の水位は避難判断水位に達しており、避難指示の時点でははん濫危険水位を超え、7日未明から一気に増水した結果同日7時過ぎに河川氾濫が発生した。避難者数は避難勧告発令時が時間別避難者数の最大値を記録し、避難者累積数は7日6時から急増し、その後70人を超える住民が避難した。

④ 被害の状況

2020年7月豪雨（以下「豪雨災害」）によって天ヶ瀬温泉街はほぼ全域で浸水被害が報告され、最高浸水水位は2.5mに達した箇所もあった。温泉街の玖珠川に架かる複数の橋梁が落橋し流失するなど大きく深い爪痕を残す被害に見舞われた。

2. 現地説明とフィールドワーク

（1）現地説明

2023年6月9日、2023年度第4回自治体書記長会議を日田市天瀬公民館で開催した。会議は2部構成とし第1部は通常の会議として、統一自治体選挙や参議院議員大分選挙区補欠選挙闘争などについて議論を深めた。

2部は、豪雨災害の状況とそこからの復旧について座学とフィールドワークを実施した。

座学では、日田市天瀬振興局天ヶ瀬温泉街復旧・復興係主幹の宮崎秀則さんから説明を受けた。宮崎さんは2020年10月に新設された天ヶ瀬温泉街復旧・復興係に配属され、住民と行政を繋ぐ橋渡し役を担っている。新設係の名称に特定の地名が冠せられているのは、温泉街が日田市の観光にとって重要な場所であることの裏付けと言える。

宮崎さんからは資料を使っておよそ1時間の説明を受けた。説明内容の要旨は以下のとおり。

- ① 豪雨災害の雨量等
- ② 豪雨災害の被害状況
- ③ 河川改修と温泉源の問題
- ④ 天ヶ瀬温泉復興プロジェクトについて
- ⑤ 天ヶ瀬温泉復興ビジョンについて

今回の豪雨災害以前にも温泉街が水害に見舞われたこともあったが、都度議論の俎上に上がるのが河川改修と温泉源の問題だという。天ヶ瀬温泉街を流れる玖珠川は川幅が狭い。河川流量を増やすには川幅を拓げるか川床を掘削する必要がある。しかし、川幅を拓げるにも川岸には温泉宿や店舗、住宅が存在しているため、簡単にはいかない。一方、川床を掘削すると温泉源に影響を与えてしまう。こうしたことから、この場所での河川改修はなかなか有効な策が打ち出されず、今回の豪雨災害においてもこの問題が住民の前に大きく横たわっていたと宮崎さんは説明する。そして、多くの場合それらの提示は行政が行い行政主導で進んでいくが、今回の天ヶ瀬温泉街の場合は住民主体で復興を進めていると宮崎さんは続けた。

こうした中で、天ヶ瀬温泉復興プロジェクトを始動させ4つのフェーズ（注2）に分けた取り組みを進めて行くとの説明を受け、このうち発災からおよそ6月までの第1・2フェーズは行政が主体となり、本格復旧や復興準備にあたる第3フェーズは行政と地域住民が連携し、本格復旧期にあたる第4フェーズは地域住民が主体となりそれを行政がサポートするイメージを考えているとの話もあった。

住民が主体となる復興に向け発足したのが「天ヶ瀬温泉つなぐ会議」だ。2021年3月24日に天ヶ瀬温泉街の復興推進を目的に地域住民や関係団体の推薦を受けた地域の若い世代を厚生委員として設立された。

構成員が若い世代と限定されるのは、設立に向けた話し合いの中で地域住民から、天ヶ瀬温泉街を将来に残すには若い人のアイデアが大切ではないかとの意見が出たためだと宮崎さんが説明を加えてくれた。

（2） フィールドワーク

宮崎市からの説明後は徒歩でフィールドワークへ向かう。JR天ヶ瀬駅に隣接する「天の国プラザ」で（一社）「あまみら」の近藤真平さんから復興に向けた取り組みの説明を受けた。近藤さんは地域おこし協力隊として天瀬に移住してきた経緯があることから、これまでも地域活動の中心を担ってきた一人だ。

近藤さんからは災害の状況や復旧・復興にあまみらとしてどう関わってきたかの説明を受けた。

特に復興に関してはつなぐ会議のメンバーとして、川と温泉が魅力の天瀬をもっと身近に感じてもらうためのアイデアを出してきたという。

さらに「あまみら」としては豪雨災害の記憶を風化させないことと、天ヶ瀬温泉街の魅力を発信するための小冊子を活用した取り組みを進めているという。

フィールドワークでは被災時に落橋し、現在は架け替えられた2橋を見学した。現地への道すがら、被災後に土砂運搬のボランティア活動をした箇所もあり当時を思い出した。移動中、金融機関のATMがあったが災害時に水没したことを受けてか、かなりかさ上げされていた。

落橋した橋の1つは温泉旅館が所有する朱塗りのつり橋で温泉のシンボルともいえるものだが、災害時に流出してしまい、現在は国の補助を受け架け替えられたものだ。しかし、この橋も玖珠川の河川拓

幅工事の際には再度架け替えが必要となるそうだ。国の縦割り行政の姿を意外な形で目の当たりにした。
およそ45分のフィールドワークではあったが、今もまだ残る災害の爪痕と復興に向け動き始めた地域の姿を体感することができた。

3. 結 び

(1) 「川と湯のまち天瀬」の復活～天ヶ瀬温泉復興ビジョン～

① 復興ビジョン

前出のつなぐ会議の中で復興ビジョンが策定された。ビジョンは目的として、地域の宝を磨き上げ、10年後の目標として以下の3つを掲げる。

ア 地域の人『全員』が「天ヶ瀬温泉街」に住んでいることに「誇り」と「安心」、「地域とのつながり」を感じ、住み心地に満足していること

イ 2021年に比べて地域住民数が増加していること

ウ 観光消費額が、2019年の額までV字回復していること

さらに、将来像として(ア)地元の方々と分かち合いたい将来像、(イ)観光地として「観光局」に感じていただきたい将来像結束力としてそれぞれ5項目を掲げている。

② 実証実験

ビジョンに掲げる将来像などの実現をめざす観点から2022年8月から9月にかけて温泉街の川辺空間を利用した実証実験が行われた。実証実験ではリラックス空間を演出するための休憩処の設置や川辺のアクティビティ創出が行われた。

休憩処の設置はハンモックやベンチ、さらには川床を設置し延べ1,000人以上が参加した。アクティビティについては、リバースクールやサウナ体験、パドルレッスン等が実施され、延べ200人近くの参加があった。

さらに10月から12月にかけては天ヶ瀬NIGHTWALKと題して、天ヶ瀬温泉街12か所のライトアップや夜市の開催など普段とは一味違った風景を体験できる実証実験も行っている。

(2) 天ヶ瀬温泉街復興まちづくり計画

① 計画の策定

住民主体で作られたビジョンや実証実験を踏まえて今年（2023年）3月に「天ヶ瀬温泉街復興まちづくり計画」が市によって作成された。計画の内容はビジョンを基本に作成され、「天ヶ瀬アドベンチャー」を天ヶ瀬温泉街復興まちづくりのコンセプトとしている。

天ヶ瀬アドベンチャーは4つの柱を基本とし、そのうちの「夜間景観デザイン」は天ヶ瀬NIGHTWALKの実証実験をもとに夜間のライトアップを河川水位のシグナルを合わせた内容となっている（水位の量でライトの色を変え危険を知らせる）。

(3) 結びに

近年、自然災害、特に豪雨災害が頻発している。私が住む日田市においてはここ10数年のうちに3度の豪雨災害に見舞われ、そのたびに県本部の仲間を始め多くの方がボランティア活動等を通じて復旧に尽力をいただいた。このレポートを作成中の6月30日から7月3日にかけても九州、そして県内各地で豪雨による災害が発生した。

頻繁に発生する自然災害は地方公務員にとっては切っても切れない関係にある。行政職員としては、避難所対応を始め災害の復旧・復興。そして、自治体労働者としては助け合いのボランティア活動。

2021年の自治研究大分県集会においては全体集会としてボランティアをテーマにしたシンポジウムが実施された。住民の暮らしと安全を守る私たちにとって、こうした学習の場は非常に重要なものと感じる。

～注釈～

(注1) 日田市天瀬振興局作成資料より

(注2) 「第1フェーズ」：緊急対応期（災害発生～2か月）

「第2フェーズ」：応急復旧期（2か月～6か月）

「第3フェーズ」：本格復旧、復興準備・始動期（6か月～24か月）

「第4フェーズ」：本格復興期（24か月～）

＜書記長会議の様子＞

右 上：被災時に落橋し架け替えられたつり橋

左 下：第1部の座学

中央下：天ヶ瀬温泉街を流れる玖珠川を眼下に当時の状況を聞く参加者

右 下：天の国プラザであまみらの活動などの説明を受ける参加者

